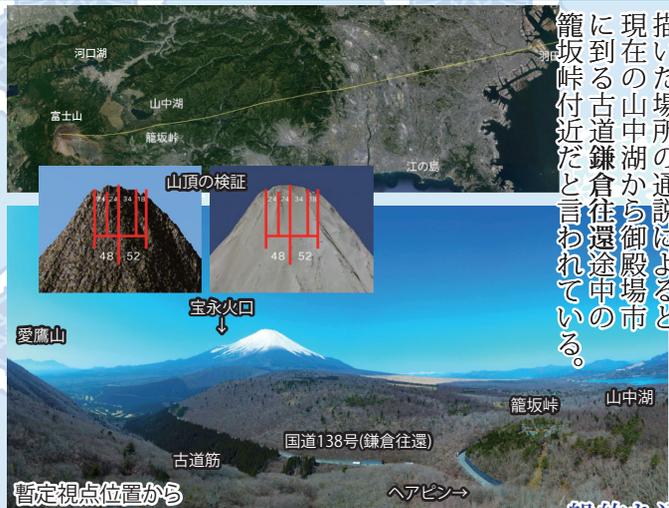


葛飾北斎の富嶽三十六景の謎を解く

甲州三島越に謎はあるのか？



描いた場所の通説によると現在の山中湖から御殿場市に到る古道鎌倉往還途中の籠坂峠付近だと言われている。



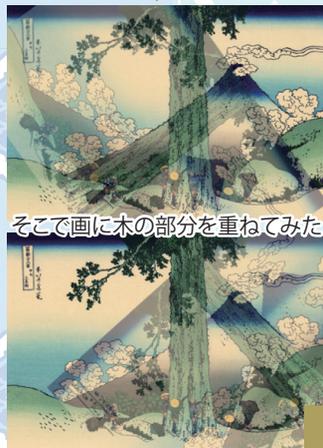
一般的な通説に従って北斎の画を構成してみる。



私的に通説を否定する証拠は見つからないが富士山稜線の凹凸のギザギザがどうしても気になる...

この凹凸に一致する場所を一年近く求めていたある日に閃いた。

この細かい凹凸は画に描かれた木の表面なのかもしれない？



さらに画の幹の部分を出して検証することに

見事に画の幹と富士山稜線が一致した！



この新たな事実により、この画の見え方が大きく変わりませんか？特にキセルの人の心情が...大きな木で喜ぶ旅人を見て「後ろに富士山があるのになあ」→「それだって富士山みたいなものだろ」→「全ては富士山なんだよ」。

ここに200年の各論に決着をつけ、新たな展望に道を開いた！



漠然と言われていた「前景と後景に富士山がある」説を新たためて補強した。